

春の妖精、スプリング・エフェメラルが遊歩道を彩る

スプリング・エフェメラルとは、早春に花をつけ、夏まで葉を残すと、その後に種や球根、根などとして地上から姿を消す草花の総称です。「春のはかない生命」とでも和訳するところでしょうか。代表的なものにはカタクリがあります。

それでは、なぜ彼らは夏のエネルギーに満ちた太陽光を待たずに消えてしまうのでしょうか。彼らの生息域は落葉樹林の林床です。すなわち、冬に枯れていた落葉樹の葉が夏には茂り、光が林床まで届かなくなるのです。それならば、春先から夏までの短い間に一気に成長し、繁殖するという戦略をとっているわけです。

しかしながら、夏から次の春まで眠っているだけかということそうではありません。次の芽吹きを速やかにおこなえるように芽の形成準備や球根の増殖を頑張っているのです。

3月～5月にかけて富士山遊歩道で見られるスプリング・エフェメラルたち



セントウソウ

セリ科

小さい白い花を多数つける。富士山遊歩道では特に多くみられる。

富士山遊歩道では A コースの歩道脇によくみられます。



トウゴクサバノオ

キンポウゲ科

茎の先端に黄白色の花をつける。東日本に多く、果実がサバの尾に似ていることが名前の由来である。

富士山遊歩道では B コースのピオトープ周辺の日当たりの良いところでよくみられます。



ユリワサビ

アブラナ科

茎の先端に白色の花をつける。繁殖力が弱いので採取することなく見守ってほしい。

富士山遊歩道では B コースのピオトープ周辺の湿ったところでよくみられます。



コガネネコノメソウ

ユキノシタ科

黄色の花を植物体の先端につける。成熟した果実がネコの目に似ている。

富士山遊歩道では B コースのピオトープ周辺の湿ったところでよくみられます。

山深い富士山資料館周辺は、この時期まだまだ春の陽気とは言えない気温であり、木々の芽吹きも進んでいません。しかし、足元に目を凝らせばここに挙げた草花の他にもフデリンドウやスミレの仲間などが可憐で美しい花を咲かせていることに気付くでしょう。この時期だからこそ楽しめるスプリング・エフェメラルや春の野草を虫めがね片手に楽しんでみてはいかがでしょうか？